

第2回南長浜地域まちづくり共創会議 要点録

- I 日 時 令和5年11月10日（金曜日）10時00分～12時00分
- II 場 所 長浜市役所本庁3階 特別会議室（長浜市八幡東町632番地）
- III 出席者 仁連 孝昭委員（座長）
岩崎 博論委員 高森 喜兵衛委員 小川 幸男委員
辻村 忠嗣委員 西川 満委員 伊藤 義弘委員
若林 浩文委員 松本 秀章委員 川崎 他家廣委員
小川 暢保委員

【オブザーバー】橋本 典子議員

【長浜市】浅見宣義市長

【事務局】未来創造部 中嶋部長、森次長
政策デザイン課 柴田課長、服部課長代理、饗場副参事、野村主査
都市計画課 和田主査
道路河川課 中川係長

IV 内 容

1 開 会

事 務 局 開会を宣言

2 市長あいさつ

市 長 【市長挨拶】

3 委員長あいさつ

委 員 長 【委員長挨拶】

4 議 事

(1) 南長浜地域まちづくり検討会議による検討経緯（中間報告）

事 務 局 ・資料に基づき、南長浜地域まちづくりにかかる検討経緯を説明。

5 意見交換

委員

- ・ 検討会議の委員としてこれまで議論に参加してきた。
- ・ 若い方の多くが「自然」「地域のお祭りなどの文化」「文化を通じた人と地域との繋がり」が大事だと思うと意見していたことが印象的である。

委員

- ・ 2050 年の豊かな世界を創るために、今から準備していこうというのが南長浜まちづくりの会議の方向性である。
- ・ 今ある資産を残しつつどう生かしていくか、また、新たな資産をどう描いていくか。未来エコシステムマップに提示したもののうち、将来に残すべきもの、今は存在しないが必要なもの、各委員のご意見を伺いたい。
- ・ 私はこの地域に来て 50 年になるが、当時この地域の農業風景を見て「ほっとする町」だと感じたのを覚えている。
- ・ 地域の国土保全、環境、産業といった農業の多面的な役割について、過去現在未来を考えて、改めて農業の在り方を決める必要があると感じている。農業施策を考える際、その場その場の支援を重視し、昔から地域が守り続けてきた「農業の精神性」という捉え方が欠けているのではないか。
- ・ 2つの大学があることが地域の誇りという意見があったが、“ある”だけで活性化するものではない。大学は知の集積地であり、大学を地域が守り育てるという観点・風土が無ければ良いものにならない。お金ではない知の力というのが未来の長浜の精神性を生み出していく。
- ・ インキュベーションセンターで、旭化成の子会社が陸上養殖のシステムを研究されている。研究がいつ実るか分からないが、そういった事業を行政や民間が後押しして物事を育てていくという視点が必要なければ街づくりにならない。
- ・ 農業も大学も事業も一朝一夕でできるものではなく、守り育てる、支えるという視点が重要と感じる。

委員

事務局

委員

- ・ 長浜市の外国人は何人くらいか。
- ・ おおよそ 3,500 人から 4,000 人ほど。
- ・ 地域の発展には、外国人労働者の起用、定住という要素が必要と感じる。外国人の定住者がおられることで子どもの数も増え、非常に活気が出てきた地域がある。私たちが普段当たり前に思っていることでも外国人にとっては素晴らしいことというのは多いので、外国人に来てもらえるような仕組みがあればと思う。
- ・ ここ数年、西黒田地域をバイクで通られる方が多く、南長浜にツーリング客などの需要に応えられるようなものがあったらいいと感じる。
- ・ 農地の利活用について、農地をブロックごとに方向性を決めて管理するような仕組みが必要と感じる。所有者一人ひとりに意思決定させるような方法では、何か進めるということも困難である。

委員

- ・ 配布資料 78 頁に親友会とあるが、正しくは「神友会」である。神

田地域の青年会 OB を中心に活動している会であり、地域の行事ごとを手掛けています。若い人の意見で、地域の行事や文化を評価してくれていることを嬉しく思う。やりたい人、楽しみたい人が集まることが大切で、ずっと続けていくことが重要と感じる。

- ・ペルソナについて、どの方も 30 代くらいで結婚して子どもが居るような設定だが、現実として独身者が多いなか 30 年後の設定が理想的すぎないだろうか。田舎社会の“結婚を求められ子どもを求められるような”ある種のいやらしさが難しいところと思うので、ペルソナの設定において少し違和感を覚えるところである。
- 委員
・資料の社会関係資本において、伝統行事や地域のつながりが大切と言っていることはありがたい。しかし、現実としては「行事が多い」という意見が自治会で多く、存続も難しい状況である。神田地域でアンケート調査を行ったが、若者が出ていくのは地域行事が多く煩わしいからという意見も見取れた。こういった意見を整理しつつも、地域との繋がりをいかに維持するかがまちづくりの大きな課題であると感じている。
- ・若者の意見にも多かった「自然を大切にすること」は重要と感じる一方、どうやって、だれが守っていくかということが大きな課題である。
- 委員長
・伝統を守る人もいれば離れる人もいる。将来に向けて、行事やしきたりを「新しい時代に適応した形」に変えていくことが求められているように感じる。無理強いしないで残ってもらえるようにすることがどの地域でも課題であり、地域の伝統や行事を評価していない人をどう捉えていくかが大きな論点になる。
- ・今の地域の人々だけで維持していくことはできない。先ほど外国人という話もあったが、外から人を呼び込んで一緒に「いままでの関係を残したコミュニティ」をどう再生していくか考えていく必要がある。
- 委員
・南長浜地域は、山もあれば川もあり、農業の問題、神社、寺、墓地の課題まである。
- ・田村町は新しい人が入ってきているが、古い習慣を押し付けずに関わっていくということを意識している。
- 委員
・南長浜は土地規制が厳しすぎて民間による開発ができない。神田 SIC に関して、周辺地域の開発を行政主導で進めてほしいと感じる。
- ・全国的な話で、食糧危機や人口減少問題、人手不足などがあり、これからの若い人たちが頑張れる環境を整えてほしい。
- ・神田 SIC 周辺に卸売市場を移転させるなど、流通機能を活かした新しい整備を行ってはどうかと考える。

- 委員長
 - ・ いずれにせよ民間ではかなわないため、行政主導で進めてほしい。
 - ・ 生きていく上で「食」ということは非常に大事なことであるが、今と同じように農業を全て継続していくことはできない状況である。今ほど提案されたような新たな方向性も検討していく必要も感じる。
- 市長
 - ・ 農業は大事な事業であり、優れた農業を守ろうという法律的な合理性もある。土地規制については、行政の立場であってもすぐに変えられるものではなく、市長だから外せるというものでもない。
 - ・ 南長浜のコンセプトやビジョンを作っていくということ、この共創会議や検討会議がまさに規制に対する一手となっていることをお伝えしたい。
- 委員
 - ・ 国や県、市といった様々な権限があるが、地域の権限というものはない。
 - ・ こういった会議に参加して 10 年近く同じような議論をしているように感じるが、実際のところ何も進んでいない。南長浜をどういう特色ある地域にしていくのか、地域が納得するためにも何か具体的に一つ進めていかなければならないのではないのか。実態として進んでいることが見えてくると熱意も高まり、実効性のある提案も出てくるはずである。
 - ・ どういった計画になるか分からないが、市民に進捗が伝わるように計画全体のタイムスケジュールを提示する必要があると考える。
- 委員
 - ・ 南長浜で豊かに暮らしていただくための優先順位として、保育・教育の立ち位置は大きいと考える。
 - ・ Society5.0 を迎えて社会が大きく変わっていることを考えると、変化に対応できるような教育が子どもにとって必要である。
 - ・ デジタル化する社会になるからこそ、リアルな体験の価値が上がり、と予想され、学校というリアルな体験は重要と感じる。
 - ・ 労働者が減る中で外国のコミュニティとの融合は考えなければならないと思うが、その点においても幼少期からの学校という場所の役割が重要である。
 - ・ 今回、未来のことを考えて未来を分析しているがあくまで「推測」である。ここに住む人が環境に対応していく力、主体性を身に付けるのに必要なのは保育・教育であり、その質と量を高める観点でも議論をしてほしい。
 - ・ 105 ページにおける資本の分類で「大学での教育」を挙げていただき光栄である。大学が与える価値として「交流の機会」、「地域の交流」とあるが、中学高校などと違う点として大学は専門性に長けており「大学」という括りで一概にまとめられるものではない。資本

委員

- としては別の観点になるのではないかと思う。
- ・ 地方卸売市場が平方から田村へ移って 33 年経つが、当初と比べて生産者数が減少してしまった。生産者も 60 歳で若手という状況であり、賃金的な問題も含めて若い方が野菜作りに魅力を感じられていないことが課題である。例えば、遊休地を一か所にまとめて大型生産地を作ってはどうかと考えている。
 - ・ 京野菜など東京に出荷され、高価な値段がついているが、長浜においては競りによってお客さんが値段をつけているのが現状である。
 - ・ 出荷量について、生産者が JA や道の駅に出荷しているので市場に来るのは少数である。少数であれば値段は下がってしまうため悪循環が起きている。
 - ・ 農業支援という点において、県で最低価格保証を設けており、市でもビニールハウスの補助などを行っているが、農業の魅力化には足りないように感じる。例えば大型産地をつくって食の有効利用を図っていただきたいなど、魅力化に繋がる施策が必要である。
 - ・ 地方卸売市場の移転について、経営面からも困難な状況である。移転するとしても単独では難しい。

6 その他

事務局

- ・ 今後のスケジュール等について説明
- ・ 第 3 回南長浜まちづくり共創会議は令和 6 年 2 月 1 3 日開催予定

以上